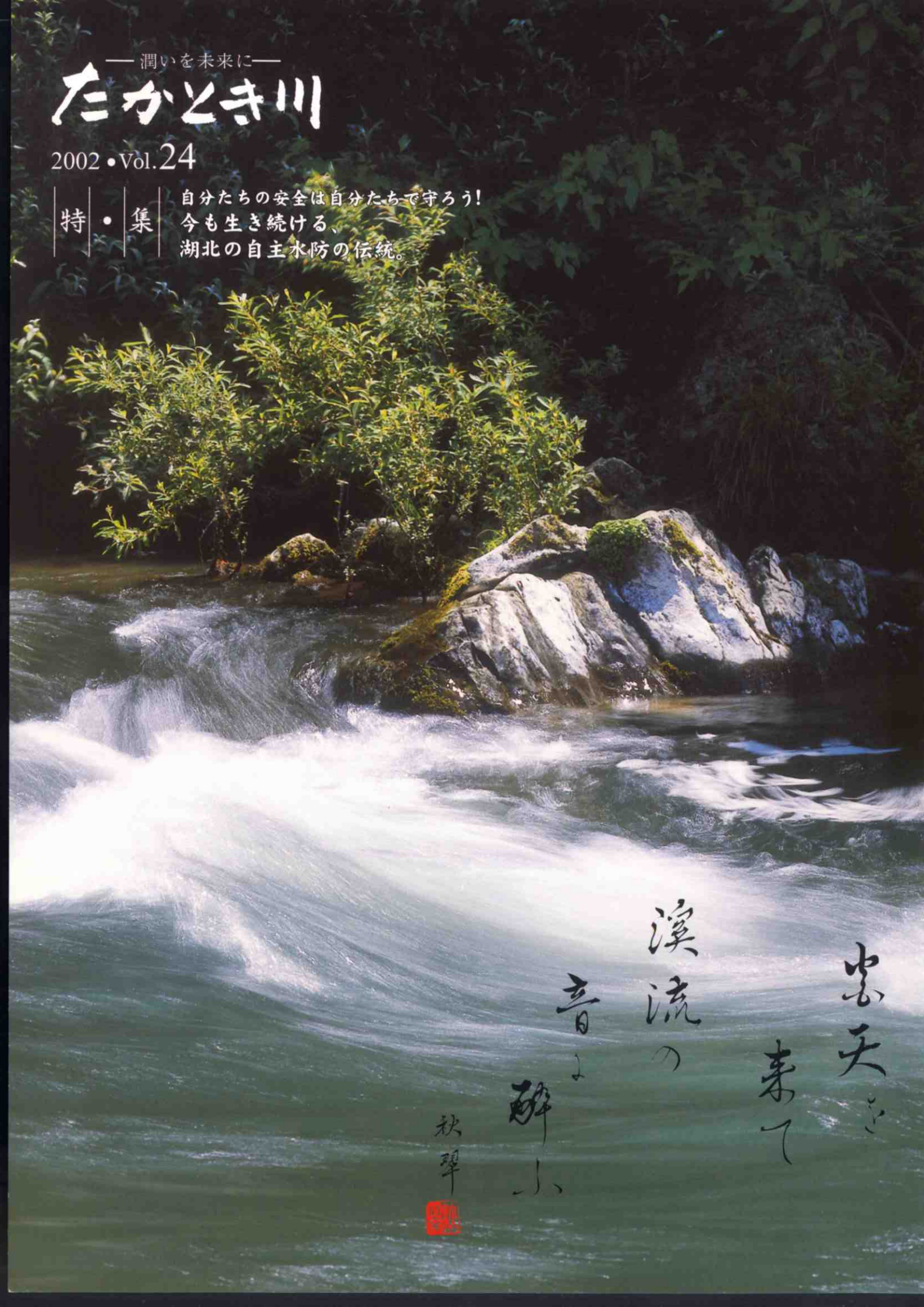


—潤いを未来に—  
**たかとき川**

2002・Vol.24

特・集

自分たちの安全は自分たちで守ろう！  
今も生き続ける、  
湖北の自主水防の伝統。



溪流の音に酔ふ  
炎天を来て

秋翠

丹生ダム広報誌 季刊 たかとき川 2002・Vol.24 発行：(財)水資源協会 監修：高時川治水対策促進協議会 水資源開発公園 丹生ダム建設所

丹生ダムからのお知らせ

丹生ダムホームページ  
<http://www.water.go.jp/kansai/niu>

**8月10日(土)**

10時30分～15時30分  
ウッドイバル余呉(余呉町)

**丹生ダムふれあいフェスタ 2002**  
に来てね

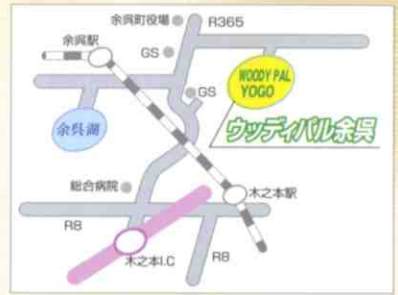
丹生ダムでは、皆さんに「水の大切さを再認識していただきたい」と、今年も水の週間に丹生ダムふれあいフェスタを開催します。

忍風戦隊ハリケンジャーのショー、建設機械への試乗、芝生の上でチャレンジするゲーム、プリクラコーナー、ビンゴ大会など楽しい企画が盛りだくさん。また、魚つかみコーナー、木工細工教室・葉脈しおり作り教室など、普段なかなか経験できないような体験型イベントもあります。

模擬店はもちろん、特産品の販売や、栃もちの実演販売も予定しています。せっかくの夏休み、大自然の中で楽しみながら、勉強しましょう!!



▲昨年の様子



場 所/ウッドイバル余呉  
伊香郡余呉町中之郷  
問い合わせ先/水資源開発公園丹生ダム建設所総務課  
☎0749-86-3800

**EVENT**

10月20日(日)

「余呉湖健康マラソン」

○場所/余呉湖  
○問い合わせ先/余呉町教育委員会 ☎0749-86-3221

8月22日(木)～25日(日)

「木之本地蔵院 大縁日」

○場所/木之本地蔵院一帯  
○問い合わせ先/木之本地蔵院 ☎0749-82-5909

8月17日(土)

「2002平和の行進」雨森区訪問

○場所/雨森区  
○内容/日韓学生200人が朝鮮通信使の足跡をたどる。雨森芳洲の生誕地訪問と交流イベント。  
○問い合わせ先/高月町役場総務企画課 ☎0749-85-3111

10月6日(日)

「小谷城ふるさと祭り」

○場所/湖北町児童館前 ○内容/野外講演、武者行列、各種模擬店など  
○問い合わせ先/湖北町役場企画課 ☎0749-78-1001

10月13日(日)

「2002あざいお市マラソン」

○場所/浅井町文化スポーツ公園が発着点  
○内容/ハーフ(男・女)、5km(男・女)、3km中学生(男・女)  
2km小学生(男・女)、2kmファミリー  
○問い合わせ先/(財)浅井町文化スポーツ事業団 ☎0749-74-3355

8月24日(土)～25日(日)

「夏休み相談室」

○場所/草津市下物町1091番地  
JR草津駅西口発で近江鉄道バス「烏丸半島」行き、琵琶湖博物館下車(約22分)  
○内容/来館された小・中学生を対象に相談室を開設します。昆虫や植物の名前がわからないことなどご相談下さい。  
○問い合わせ先/滋賀県立琵琶湖博物館 ☎077-568-4811

**QUIZ** このコーナーでは、毎回、クイズに正解された皆さんの中から、抽選で10名様にプレゼントをお送りしています。

今回のクイズは...

木の根の方を杭と綱で固定し、枝の方を流れにつける水防工法を「〇流し」と呼びます。さて「〇流し」の〇とは何でしょうか？

皆さんからのたくさんのご応募をお待ちしています。

【クイズ解答のあて先】

クイズの解答は、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記の上、下記のあて先までハガキでお送りください。また「たかとき川」へのご意見、ご感想等がございましたら、あわせてご記入下さい。

〒529-0522 滋賀県伊香郡余呉町坂口819  
水資源開発公園 丹生ダム建設所 広報誌クイズ係  
\*クイズの締切は平成14年8月31日(土)消印まで有効です。

【たかとき川・23号】のクイズの答え  
《ザゼンソウ》

前号のクイズに多数の御応募ありがとうございました。抽選の結果、下記の方々が当選されました。

クイズ当選者(応募総数167枚)  
中嶋良男様 谷川浩美様 中川幸治様 川瀬幸子様  
田中久枝様 杉本正子様 山口夏代様 橋本真由美様  
中山政城様 川上みね様

●この広報誌「たかとき川」は再生紙を使用しております。

**民話** シリーズ⑩ 竹生島の木

昔、下八木(びわ町)の人達は、琵琶湖の竹生島へ小さな田舟でよく行き来していました。

そんなある時、下八木のお爺さんが「ネズミサシ」という木を蚊取り線香のかわりに使うため舟に積んで持って帰ろうとしました。竹生島を出て、琵琶湖の真中まで来ると、船に積んでいた「ネズミサシ」が火の気もないのにモクモクと煙を上げて燃え始めたのです。お爺さんは驚いて、「これはきっと竹生島のものを持ち帰ったので、罰があたったんや。こんな怖いものは持って帰れんワイ」と言って、急いで竹生島へ戻りその木を返しますと、火は静かに消えてしまったそうです。

それから、竹生島に生えているものは絶対に持って帰れないということになったそうです。

(びわ町の民話より)

**編集後記**

今回の「水防活動」の特集はいかがでしたか。私たちの生活は、今回の水防活動だけでなく、たくさんの人たちにささえられている事に再び気がつきました。7月の台風のニュースでみた川の氾濫は人ごとではなく、湖北に流れている川でも、明日にでも起こる可能性を実感しました。今年の夏も暑いですが、元気に過ごして、毎日を楽しみましょう。個人的にはビールがうまい夏でありますように願っています。みなさまは、どんな夏にするつもりですか

俳句/炎天を来て 溪流の音に酔ふ

表紙撮影/余呉町下丹生・奥村正利